

第3章 目標

心豊かに生涯を送れる健康長寿県の創造

- 健康寿命の延伸と健康格差の縮小
- 生活の質（QOL）の向上

現在、我が国は、少子化・高齢化による総人口・生産年齢人口の減少、独居世帯の増加、女性の社会進出、労働移動の円滑化、仕事と育児・介護との両立、多様な働き方の広まり、高齢者の就労拡大等による社会の多様化、あらゆる分野におけるデジタルトランスフォーメーション（DX）の加速、次なる新興感染症も見据えた新しい生活様式への対応の進展等の社会変化が予想されています。

このような状況の中、本県では、時代の潮流にも的確に対応できる社会、安心・安全で持続可能な地域社会、そして高齢者や女性、障害者、子ども、外国人など、あらゆる方々が生き生きと活躍できる、誰一人取り残さない社会を構築することが重要であり、「誰もが安心して暮らし、活躍できる鹿児島」の実現に向けて、「未来を拓く人づくり」、「暮らしやすい社会づくり」、「活力ある産業づくり」に取り組み、これらの好循環を生み出すことが重要です。

これらを踏まえ、県民の健康づくりを推進するための総合的な計画である「健康かごしま21（令和6年度～令和17年度）」では、「心豊かに生涯を送れる健康長寿県の創造」を目指し、「健康寿命の延伸と健康格差の縮小」及び「生活の質（QOL）の向上」を目標とします。

▪ 健康寿命の延伸と健康格差の縮小

全ての県民が健やかで心豊かに生活できる持続可能な社会の実現のためには、個人の行動と健康状態の改善に加え、個人を取り巻く社会環境の整備やその質の向上を通じて、「健康寿命の延伸と健康格差の縮小」を目指すことが重要である。

健康寿命：健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間

健康格差：地域や社会経済状況の違いによる集団間の健康状態の差

▪ 生活の質（QOL）の向上

「心豊かに生涯を送れる健康長寿県の創造」を実現するためには、健康上の問題の有無に関わらず、生活の質（QOL（クオリティー・オブ・ライフ）：幸せ・生活満足度等）を高めることが重要である。

目標項目	指標	対象	現状値 (令和元年)	目標値 (令和15年度)	現状値の出典
健康寿命の延伸	日常生活に制限のない期間の平均	全年齢	73.40歳(男性) 76.23歳(女性)	平均寿命の増加分を上回る健康寿命の増加	国民生活基礎調査に基づく国の算定値